

令和6（2024）年度

第6学年

学習の内容と評価



東京学芸大学附属国際中等教育学校

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。	
6 学年【論理国語】の目標/伸ばしたい力	
<ul style="list-style-type: none"> ・実社会において必要となる、論理的に書いたり批判的に読んだりする力。 ・テキストを読み、身につけている知識を活用して、書かれている内容を理解する力。 ・文章を読むだけでなく、人の話、さまざまなメディアからの情報を含めて、分析する力。 ・自分の考えや心情、あるいは調査結果・報告・説明などを相手にわかりやすく伝えるための構成力。 ・自分の考えを深めたり、他の人よりよいコミュニケーションを図ったりするために、人の話やメディアからの情報を正確に捉え、情報を選択・整理する力。 ・言語についての知識やそれを活用する技能。 	
ISS 評価規準	評価方法
規準 A：知識・理解	・テキストを読んで、構成・展開・要旨などを的確にとらえ、理解する力を身につける。
規準 B：分析	・テキストを読み、批評することを通して、人間・社会・自然などについて主体的に考える力をつける。
規準 C：構成	・テキストの読解を通してその作品を分析し、他の作品と比較したり、他の作品とのつながりを考察したりできる力を身につける。
規準 D：言語の使用	・テキストの読みを深めるために、自身の意見やアイデアを持続性、一貫性、及び論理性のある方法で整理する力を身につける。
	・学年相当の語彙・文法知識を身につけ、適切に運用する力を身につける。
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	テスト・レポート・発表などの活動をもとに評価する。
思考・判断・表現	テスト・レポート・発表などの活動をもとに評価する。
主体的に学習に取り組む態度	学習への取り組み具合をもとに評価する。
使用教材	
教科書：論理国語（大修館書店）	
副教材：入試頻出漢字＋現代文重要語彙 TOP2500（いっずな書店）・カラー版新国語便覧（第一学習社）	
学習内容	
主に以下のような活動を行います。	
<ul style="list-style-type: none"> ・読むことを通して、内容や構成、論理展開の把握、要旨の把握を行う。 ・読むことを通して、主張と資料との関係を把握する。 ・主張や根拠を批判的に検討し、妥当性を吟味しながら文章を読む。 ・文章構成や論理展開、表現の仕方を意識して文章を読む。 ・情報の妥当性、論点の明示を意識して文章を書く。 ・文章構成や論理展開を工夫して文章を書く。 ・表現の仕方や段落構造を吟味して文章を書く。 	
備考	
論理国語は 5 年と 6 年で 2 単位ずつ分割で履修します。両方履修して、論理国語を履修したことになります。	

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。	
5 学年【文学国語】の目標/伸ばしたい力	
<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能 ・我が国の言語文化に対する理解を深める力 ・深く共感したり豊かに想像したりする力、創造的に考える力、他者との関わりの中で伝え合う力 ・言葉がもつ価値への認識を深める力 ・言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度 	
ISS 評価規準	評価方法
規準 A：知識・理解	知識・理解の能力を、定期テスト・レポート・作品・発表活動などからはかります
規準 B：分析	分析の能力を、定期テスト・レポート・作品・発表活動などからはかります
規準 C：構成	構成の能力を、定期テスト・レポート・作品・発表活動などからはかります
規準 D：言語の使用	言語の使用の能力を、定期テスト・レポート・作品・発表活動などからはかります
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	テスト・レポート・発表などの活動をもとに評価する。
思考・判断・表現	テスト・レポート・発表などの活動をもとに評価する。
主体的に学習に取り組む態度	学習への取り組み具合をもとに評価する。
使用教材	
教科書：文学国語（東京書籍）	
副教材：古典文法（京都書房）・古典文法ドリル（京都書房）・漢文の習得（浜島書店）・カラー版新国語便覧（第一学習社）	
学習内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解する ・作品の内容や形式について、書評を書いたり、自分の解釈や見解を基に議論する ・小説や詩歌などを創作し、批評し合う ・様々な資料を調べ、その成果を発表したり短い論文などにまとめる <p>* 古典や古典に関する文章も扱います</p>	
備考	
文学国語は 5 年と 6 年で 2 単位ずつ分割で履修します。両方履修して、文学国語を履修したことになります。	

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。	
5 学年【古典探究】の目標/伸ばしたい力	
<ul style="list-style-type: none"> ・時代背景や社会背景を考えながら、他者・古人の考えや思いを言語表現を通して、深く理解する力。 ・文章を読むだけでなく、人の話、さまざまなメディアからの情報を含めて、読み取り、分析する力。 ・自分の考えや心情、あるいは調査結果・報告・説明などを相手にわかりやすく伝える力。 ・自分の考えを深めたり、他の人によりよいコミュニケーションを図ったりするために、人の話やメディアからの情報を正確に捉え、情報を選択・整理する力。 ・言語についての知識やそれを活用する技能。 	
ISS 評価規準	評価方法
規準 A：知識・理解	小テスト・期末テスト・授業内小レポート・発表活動
規準 B：分析	期末テスト・授業内小レポート・学期末レポート・発表活動
規準 C：構成	授業内小レポート・学期末レポート・発表活動
規準 D：言語の使用	文法小テスト・漢文句法小テスト・語彙の小テストなど * 状況によって、評価材料の増減があり得ます。
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	小テスト・期末テスト・授業内小レポート・発表活動などを用いて評価する。
思考・判断・表現	期末テスト・授業内小レポート・学期末レポート・発表活動・小テストなどを用いて評価する。
主体的に学習に取り組む態度	学習への取組とその到達度・提出物・議論や討論への参加状況とその成果を用いて評価する。
使用教材	
教科書：古典探究古文編（大修館書店）・古典探究漢文編（大修館書店）	
副教材：古典文法（京都書房）・古典文法ドリル（京都書房）・漢文の習得（浜島書店）・三訂版対応 漢文基本ノートβ（浜島書店）・カラー版新国語便覧（第一学習社）・三訂版わかる読める解ける Key & Point 古文単語 330（いっぴな書店）	
学習内容	
<p>古文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平安～近世までの代表的な古典作品の読解 ・万葉集・古今和歌集・新古今和歌集を中心とした和歌の理解 ・文学・文芸・芸術に焦点をあてた歴史的・社会的背景の理解 <p>漢文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表的な故事の理解・思想の基礎的読解 ・『史記』を中心とした史話の基礎的読解・代表的な漢詩の理解 <p>* 古典文法の基礎力の伸長 * 基本的な漢文句法の定着</p> <p>★ 近代以降の文学評論や古典に関わる文章を読み比べることも入ります。</p>	
備考	
古典探究は 5 年と 6 年で 2 単位ずつ分割で履修します。両方履修して、学習指導要領上の標準単位数 4 単位を履修することで古典探究を履修したことになります。	

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。	
5 学年 DP【日本語 A 文学】の目標/伸ばしたい力	
<ul style="list-style-type: none"> ・異なる時代、スタイル（文体）およびジャンルの多様なテキストを読み解き、鑑賞する力 ・個々のテキストを綿密かつ詳細に分析し、関連性のあるものと結びつけることができる力 ・テキストの格調高さや様式的、美的な質の味わいを理解する力 ・文化的背景の異なる人々の間で異なるものの見方があることや、それらの見方がどのように意味を構成しているかを認識する力 ・文学作品を独自に批評する力と、そこに示す自分の考えを裏付け（根拠）に基づいて構成する力 	
〈評価規準別〉	
規準 A 知識、理解、解釈：	
<ul style="list-style-type: none"> ・作品やテキストについて、理解する力を身につける。 ・作品やテキストについての知識と理解を使用して、グローバルな問題に関する結論を導き出す。 ・作品やテキストを参照し、裏づけとなる内容をもとに考えを深める。 	
規準 B 分析と評価：	
<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの特徴や作者の選択に着目し、それらがどのように意味を形成するか分析する力を身につける。 ・言語、技法、スタイルの選択に着目し、他の作品との比較を通して、それらの選択の持つ効果を分析する力を身につける。 	
規準 C 焦点と構成：	
<ul style="list-style-type: none"> ・自身の考えに一貫性を持たせ、焦点を絞って組み立て、効果的に構成する力を身につける。 	
規準 D 言語：	
<ul style="list-style-type: none"> ・学年相当の語彙・文法知識を身につけ、適切に運用する力を身につける。 ・正確かつ明確であり、より多様な言葉遣いを身につける。 	
ISS/DP 評価規準	評価方法
※校内での規準 規準 A 知識・理解（10 点） 規準 B 分析（10 点） 規準 C 構成（10 点） 規準 D 言語の使用（10 点） ※IBDP での規準 規準 A 知識、理解、解釈 規準 B 分析と評価 規準 C 焦点と構成 規準 D 言語	レポート・発表活動など レポート・発表活動など レポート・発表活動など レポート・発表活動など * 状況によって、評価材料の増減があり得ます。 学期ごとに評価材料と評価基準についての説明を別紙で配布します。 * 6 年次の最終評価のために行う Mock（DP 模試）や IA・HL 小論文なども学校としての評価に含まれます。 * 予測スコアについては、5 年次からの課題や発表、Mock、IA、HL 小論文などを含めて算出します。
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	レポート・発表活動・試験・学習者ポートフォリオなど
思考・判断・表現	レポート・発表活動・試験・学習者ポートフォリオなど
主体的に学習に取り組む態度	レポート・発表活動・学習者ポートフォリオなど
学習内容	
IB のガイドの定める方法によって扱う予定の作品を決めます。扱う予定の作品については、コースアウトラインとともに年度初めに作品リストを提示します。このリストや論理国語・文学国語の教科書、リストに上がった作品に関する評論をもとに学習を進めます。また複数の作品から生徒自身が扱う作品を決めることもあり得ます。	
備考	
5 年次・6 年次開設の学校設定科目として扱う。	

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>○グローバル化が急速なスピードで進む今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。</p> <p>○現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。</p>	
6 学年【世界史探究】の目標/伸ばしたい力	
<p>先史時代から 21 世紀までの世界の諸地域における変遷と展開の過程を学習し、5 年次に〈歴史総合〉で学習した近現代の時代とあわせて、世界の歴史に対する深い理解ができるようにします。また、現代の諸課題について様々な視点や立場から歴史的背景をふまえて考察できるような歴史的思考力を培うことを目標とします。なお、大学入試も意識しますが、国公立大学 2 次試験の論述問題にも対応できるよう、膨大な知識の詰め込みではなく、歴史事象の関連性や因果関係の方を重視した授業を展開します。</p>	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
<p>文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います</p>	
知識・技能	<p>社会科に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。</p>
思考・判断・表現	<p>社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>社会科を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。</p>
使用教材	
<p>教科書：世界史探究（東京書籍）</p>	
学習内容	
<p>〈第 1 学期〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○諸地域の歴史的特質 <p>古代における各地域世界の形成をたどり、それぞれの歴史的特質について探り、古代文明が現代の社会にどのような影響をおよぼしているか考えていきます。</p> ○諸地域の交流と再編 <p>諸地域の交流の広がりや再編が進む中で、地球規模で諸地域がどのようにつながっていったのかを考えていきます。</p> <p>〈第 2 学期〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○諸地域の交流と再編 <p>諸地域の交流の広がりや再編が進む中で、地球規模で諸地域がどのようにつながっていったのかを考えていきます。</p> ○一体化していく世界 <p>諸地域の統合の進展と変容が進む中で、地球季語での諸地域のつながりがどのように広がり展開していったのかを考えていきます。</p> ○グローバル化と地球的課題 <p>多角的な相互依存関係を深める現代社会の特質を考えていきます。</p> <p>〈第 3 学期〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地球世界の課題と探究 <p>これまでの学習を踏まえて、持続可能な社会の実現を視野にいれて、主題を設定し、諸資料を活用して探究活動を行います。</p> 	
備考	
<p>詳細については、第 1 回授業で配布する資料を参照してください。</p>	

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>○グローバル化が急速なスピードで進む今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。</p> <p>○現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。</p>	
6 学年【日本史探究】の目標/伸ばしたい力	
<p>日本前近代史（原始古代・中世・近世）を中心に学習します。様々な資料・史料を読解し、それらをもとに歴史的な思考を育み、当時の政権がとった政策や事柄の歴史的意義について、互いの意見をかわし、論議を深めていく力を養うことを目的とします。</p> <p>思考力とともに、論理的にアウトプット・表現できる力（エッセイ・小論文等の論述等）を身につけます。</p>	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
<p>文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います</p>	
知識・技能	<p>社会科に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。</p>
思考・判断・表現	<p>社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>社会科を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。</p>
使用教材	
<p>教科書：日本史探究（東京書籍）</p>	
学習内容	
<p>日本前近代史について、政治・経済・外交等の側面から学習していきます。</p> <p>主な学習内容は、以下の通りです。</p> <p><第 1 学期> 現代および原始・古代 ～ 中世（鎌倉時代）</p> <p><第 2・3 学期> 中世（室町時代）～ 近世</p> <p>※詳細な学習内容については、授業で提示します。</p>	
備考	
<p> </p>	

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>○グローバル化が急速なスピードで進む今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。</p> <p>○現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。</p>	
6 学年【地理探究】の目標/伸ばしたい力	
<p>本校の地理歴史科では 4 年次および 6 年次の 2 年間で地理を学習します。そのうち、6 年次では地理学における「系統地理」分野と「地誌」分野の内容を、以下の 3 つを目標とし学習を進めます。</p> <p>○世界の様々な地理的事象や地域の特徴を理解することで、幅広い知識と教養を身につける。</p> <p>○世界と私たちとの様々な結びつきを見いだす能力を身につける。</p> <p>○様々な視点からものごとを考える能力を身につける。</p> <p>地理的な考え方を身につけるとともに、論理的にアウトプットできる力（スピーチ・エッセイ・小論文等の論述等）を身につけます。</p>	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
<p>文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います</p>	
<p>知識・技能</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>地理に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・試験・課題等から評価します。</p> <p>地理的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・試験・課題等から評価します。</p> <p>地理を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。授業中の活動、エッセイ、課題等への取組みを総合的に判断して評価します。</p>
使用教材	
<p>教科書：新詳地理探究（帝国書院）・新詳高等地図（帝国書院・4 年次に使用したもの）</p> <p>副教材：新詳地理資料 COMPLETE2022（帝国書院・4 年次に使用したもの）・データブック・オブ・ザ・ワールド 2024（二宮書店）</p> <p>※地図帳および資料集は 4 年次に購入したものを引き続き使用し、必要な副教材は追加購入します。</p>	
学習内容	
<p>【1 学期】</p> <p>○自然環境 ◆地形（大地形分類、小地形〔海岸地形ほか〕） ◆植生と土壌</p> <p>○資源と産業 ◆農林水産業〔第 1 次産業〕</p> <p>◆鉱工業〔第 2 次産業〕（発達過程、立地とその変化）</p> <p>○地誌 ◆アジア（東アジア、東南アジア、南アジア、西アジア・中央アジア）</p> <p>◆アフリカ</p> <p>【夏期休業】（集中講義を実施予定）</p> <p>◆日本地誌 ◆人口 ◆貿易 …など</p> <p>【2 学期（3 学期）】</p> <p>○資源と産業 ◆第 3 次産業（観光業、商業、交通・通信）</p> <p>○民族・宗教 ◆民族と宗教 ◆民族・領土問題</p> <p>○地誌 ◆ヨーロッパ ◆ロシアと周辺諸国</p> <p>◆アンゴロアメリカ ◆ラテンアメリカ ◆オセアニア</p> <p>○村落と都市 ◆村落（集落の立地と発達、村落の形態）</p> <p>◆都市（都市の立地と発達、都市機能、都市の内部構造、都市問題）</p> <p>※学習内容の順序は諸般の事情によって、変更されることがあります。</p>	
備考	
<p> </p>	

6 か年を通じた教科目標/養いたい力

- グローバル化が急速なスピードで進む今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。
- 現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。

6 学年【世界史特講】の目標/伸ばしたい力

19～20 世紀を中心とした歴史総合の内容について、5 年次に〈歴史総合〉で学習した内容を確認しつつ、より発展的な内容を取り上げて理解を深めています。また、〈世界史探究〉で学習する内容ともあわせて、現代の諸課題のうち世界史的背景をふまえて考察すべきテーマをいくつか取り上げ、歴史的思考力を培います。なお、大学入試も意識しますが、国公立大学 2 次試験の論述問題にも対応できるよう、膨大な知識の詰め込みではなく、歴史事象の関連性や因果関係の方を重視した授業を展開します。

文部科学省 学習指導要領における観点別評価

文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います

知識・技能	社会科に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。
思考・判断・表現	社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。
主体的に学習に取り組む態度	社会科を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。授業中の活動、エッセイ、課題等への取り組みを総合的に判断して評価します。

使用教材

教科書：世界史探究（東京書籍・「世界史探究」と同じもの）

学習内容

〈第 1 学期〉

- 歴史総合の内容の深化（近現代史中心）

歴史総合の学習内容をより深め、現代社会に直結する世界の動きについて学習します。特に、ジェンダーや人権などのテーマ史の内容を踏まえつつ、近代社会の特質と問題について整理し、それらの理解を深めています。

〈第 2 学期〉

- 世界史におけるテーマ史

世界史探究で学習する内容とあわせ、世界史における重要問題をテーマ史として学習します。特に地域間の相互作用の問題や、現代社会における課題の世界史的背景に注目した内容を扱っていきます。

〈第 3 学期〉

- 世界史に関する問題演習

備考

6 か年を通じた教科目標/養いたい力

- グローバル化が急速なスピードで進む今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。
- 現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。

6 学年【日本史特講】の目標/伸ばしたい力

日本・アジアからの視点で捉えた近現代史の内容について、歴史総合で得た知識や読解力、思考力を駆使して、より深化・発展的な内容を取り上げて理解を深めていきます。また、日本史探究で学習する内容ともあわせて、トピックをいくつか取り上げ歴史事象を包括的に把握する力、記述する力を養います。

なお、大学入試も意識して演習なども行いますが、論述問題にも対応できるよう、知識の暗記にとどまらない形となります。

文部科学省 学習指導要領における観点別評価

文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います

知識・技能	社会科に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。
思考・判断・表現	社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。
主体的に学習に取り組む態度	社会科を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、ふりかえりなどの記述から総合的に評価します。授業中の活動、エッセイ、課題等への取り組みを総合的に判断して評価します。

使用教材

学習内容

- 〈1 学期〉
- 日本・東アジアを中心とした近現代史
歴史総合の学習内容をより深め、近現代の歴史事象について包括的に考察・探究していきます。
- 〈2 学期〉
- テーマ史
日本史探究で学習する内容（前近代史）から、重要なテーマをいくつか取り上げて探究します。
- 〈3 学期〉
- 問題演習
- ※詳細な学習内容については、授業で提示します。

備考

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>○グローバル化が急速なスピードで進む今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。</p> <p>○現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。</p>	
6 学年【地理特講】の目標/伸ばしたい力	
<p>地理総合・地理探究で得た知識や地理的思考力を駆使して、地理的事象と関連した諸課題について、分析・考察し的確にアウトプットできるようにトレーニングしていきます。図表や統計の読み取り、レジュメ作成など基礎的な能力を身につけながら、地理的事象を包括的に把握する力、発信する力を養います。</p> <p>大学入試を意識して演習なども予定していますが、知識の暗記にとどまらない形になります。</p>	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
<p>文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います</p>	
<p>知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>地理に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・課題等から評価します。</p> <p>地理的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・課題等から評価します。</p> <p>地理を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。授業中の活動、エッセイ、課題等への取組みを総合的に判断して評価します。</p>
使用教材	
<p>学習内容</p> <p>主な学習内容は、以下の通りです。</p> <p>【1 学期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地理的思考力を用いた課題発見・解決トレーニング ◆ 系統地理分野における分析・考察トレーニング <p>【2・3 学期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 読図トレーニング ◆ 地誌分野における分析・考察トレーニング <p>※詳細な学習内容については、履修者と相談しながら調整します。</p>	
備考	
<p> </p>	

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>○グローバル化が急速なスピードで進行している今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。</p> <p>○現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。</p>	
6 学年 DP【歴史】の目標/伸ばしたい力	
<p>DP 歴史では、世界史を古代から現代まで広く取り上げるのではなく、いくつかのテーマを選んで深く探究していくこととなります。本校では、20 世紀の世界史に関わるテーマ取り上げます。また、HL 選択項目としては四つの地域世界のうちヨーロッパ世界を中心に学習していきます。様々な史資料の分析、調査、プレゼンテーション、議論、エッセイライティングを通して歴史的思考力を高めています。</p>	
ISS/DP 評価規準	評価方法
<p>DP 歴史の次の 4 つの評価目標（評価規準、観点）に基づいて評価します。4 つの観点の合計点は 40 点です。4 つの観点を総合して、各学期および学年の DP 評価を 7 段階で、学年の評定を 5 段階で示します。</p>	
<p>規準 A：知識と理解（10 点）</p> <p>規準 B：応用と分析（10 点）</p> <p>規準 C：知識の統合と評価（10 点）</p> <p>規準 D：適切なスキルの活用と応用（10 点）</p>	<p>下記の①～④の 4 つの評価対象によって評価します。①～④のそれぞれについて、A～D の観点ごとに点数化し、換算表によって 7 段階評価および 5 段階評定を算出します。</p> <p>①各学期に実施するテスト … DP 最終試験の形式に準拠したテスト。Paper 1 は資料分析とエッセイライティング、Paper 2 と Paper 3 はエッセイライティングです。</p> <p>②模試 … 6 年次 8 月後半に DP 最終試験の形式に則って実施します。</p> <p>③IA（内部評価）の歴史研究の Final Draft（最終稿）</p> <p>④その他、学習状況全般：</p>
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
<p>文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います</p>	
<p>知識・技能</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>社会科に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。上記の観点 A・B に対応します。</p> <p>社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。上記の観点 C・D に対応します。</p> <p>社会科を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、IA や授業中の活動、振り返りなどの記述から総合的に評価します。</p>
学習内容	
<p>〈1 学期〉</p> <p>○冷戦：第二次世界大戦後の世界</p> <p>…Paper 2-12「冷戦：超大国間の緊張と対立（20 世紀）」の内容を中心にして、Paper 3-17「大戦後の西および北ヨーロッパ（1945～2000 年）」および Paper 2-11「20 世紀の戦争の原因と結果」の内容ともオーバーラップさせながら、第二次世界大戦後の世界の動きを取り上げて、様々な観点から比較・対比し、歴史的な評価を加えていきます。主なテーマ（視点）は次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対立関係、不信、和解 … 同盟の破綻と超大国間対立の出現、対立と和解、冷戦終結の理由、など ・指導者と国家 … 指導者が冷戦の過程に及ぼした影響、冷戦の緊張が各国に及ぼした影響、など ・冷戦が引き起こした危機の事例研究 … 危機の原因、影響、重要性の考察と比較（ベルリン危機、キューバ危機、など） <p>〈2 学期〉</p> <p>○戦後の西ヨーロッパに関する事例研究</p> <p>…Paper 3-17「大戦後の西および北ヨーロッパ（1945～2000 年）」の内容を中心に、1 学期に取り上げた冷戦期の西ヨーロッパについて、ドイツ・フランス・スペイン・イギリスの 4 か国を事例として取り上げ、様々な視点から第二次世界大戦後の歴史について検証を加えていきます。</p> <p>○20 世紀世界史に関するいくつかの論点および歴史的意義の検討</p> <p>…11 月の最終試験に向けて、5 年次から取り上げてきた 20 世紀世界史に関して Paper 1～3 で要求される探究課題にそって検討していきます。</p> <p>○テーマ学習</p> <p>…「世界史 A」のうちこれまでの DP 歴史の授業で扱えなかったテーマや、世界の諸課題（時事問題）について取り上げます。発表者は歴史的に考察できるテーマを選び、探究課題を提示し、クラス全体で議論していきます。</p> <p>〈第 3 学期〉</p> <p>○テーマ学習</p>	

★詳細については「DP 生徒用ガイド : History HL」を参照してください。

備考

「歴史総合」の履修を代替するものとする。

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>○グローバル化が急速なスピードで進む今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。</p> <p>○現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。</p>	
6 学年【倫理】の目標/伸ばしたい力	
<p>「私たちは、いかにしてよりよい社会を作っていくのか」。これを本質的な問いとして設定し、「自己と向き合い、他者とつながる中で、より良い未来にしたいと願う市民性」(公的資質)を養うことが、本校公民科の目標である。</p> <p>現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想する活動を通して、グローバル化する国際社会において主体的に生きる社会の有為な形成者としての資質・能力を育成したい。3 学年の「社会（公民分野）」、4 学年の「公共」の内容をさらに深化・発展させ、倫理に関する現代的につながる人間の生き方について深く掘り下げていきたい。</p>	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	<p>倫理に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。</p> <p>哲学・思想な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。</p> <p>倫理を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。</p>
使用教材	
教科書：倫理（東京書籍）	
学習内容	
<p>担当教員が作成した学習プリントを用い、補助教材なども活用して学習していきます。</p> <p>おもな学習内容は、以下のとおりです。</p> <p>○人間の心のあり方 ・主として人間の特質や心の働きについて学習します</p> <p>○さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ ・主として古代ギリシャの思想、古代中国の思想、宗教と社会について学習します。</p> <p>○さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ ・主としてルネサンス以降のヨーロッパや近現代の世界の思想について学習します。</p> <p>○国際社会に生きる日本人としての自覚 ・主として日本人の精神風土、仏教思想、江戸時代の思想、近現代の思想について学習します</p>	
備考	

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>○グローバル化が急速なスピードで進む今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。</p> <p>○現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。</p>	
6 学年【政治・経済】の目標/伸ばしたい力	
<p>「私たちは、いかにしてよりよい社会を作っていくのか」。これを本質的な問いとして設定し、「自己と向き合い、他者とつながる中で、より良い未来にしたいと願う市民性」(公的資質)を養うことが、本校公民科の目標である。</p> <p>現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想する活動を通して、グローバル化する国際社会において主体的に生きる社会の有為な形成者としての資質・能力を育成したい。3 学年の「社会（公民分野）」、4 学年の「公共」の内容をさらに深化・発展させ、政治・経済に関する現代的諸課題を深く掘り下げていきたい。</p>	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	政治・経済に関する知識の獲得と、技能の習得を授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。
思考・判断・表現	社会的な見方・考え方を働かせ、考察したり表現したりできているかを授業中の学習活動・定期試験・課題等から評価します。
主体的に学習に取り組む態度	政治・経済を探究する姿勢を「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点を踏まえた上で、振り返りなどの記述から総合的に評価します。
使用教材	
教科書：高等学校 政治・経済（第一学習社）	
学習内容	
<p>担当教員が作成した学習プリントを用い、映像資料なども活用して学習していきます。</p> <p>おもな学習内容は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現代政治のしくみと日本 <ul style="list-style-type: none"> ・主として政治と法のあり方、憲法と基本的人権、平和主義、統治機構、選挙制度、地方自治について学習します ○現代経済のしくみと日本 <ul style="list-style-type: none"> ・主として市場経済とメカニズム、景気変動、金融と財政、日本経済史、企業と労働問題について学習します。 ○現代日本の諸課題 <ul style="list-style-type: none"> ・国内政治、国内経済の知識や見方考え方をもち現代日本の諸課題を考察します。 ○現代の国際社会と政治 <ul style="list-style-type: none"> ・主として国際社会の成立、国連をはじめとする国際機関や国際協力、紛争と軍拡軍縮について学習します。 ○現代の国際社会と経済 <ul style="list-style-type: none"> ・主として国際貿易と分業、国際収支と為替、第二次世界大戦以降の IMF-GATT 体制、EU や ASEAN などの地域共同体について学習します。 ○国際社会の諸課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ここまで学んだ見方考え方を働かせ、国際社会の諸課題について考察します。 	
備考	

6 年を通じた教科目標/養いたい力

国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かに豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。6 年を通して、次のことを目標とし、学習を進めます。

国際社会の一員として、適切に判断し行動できる人間になるために、
 数学的リテラシーを育むとともに、数学に対する興味・関心を高め、豊かな感性を養う。

授業では、この目標を実現するために、また、数学教育の国際的な動向に目を向け、本校の独自テキスト『TGUISS 数学』を使用しながら、次のような活動を重視していきます。

- 実社会の問題を、数学の問題に直し、数学的に処理し、得られた解をもとの問題場面に照らして解釈する活動
- さまざまなアプリケーションを積極的に活用した探究活動
- 数学を使い、つくる活動

特に、現実や数学の事象を解決し、その過程を振り返って活動を整理することによって、新たな数学の知識や方法を構築する力の育成を目指します。

6 学年【数学Ⅲ】の目標/伸ばしたい力

学習内容や数学的プロセスに基づき、継続的に以下の力の育成を図っていきます。

- 様々な文脈において、数学的に問題を解決する力
- 数学的に推論したり、数学的根拠に基づき意思決定したりする力
- 事象を描写したり説明したり予測したりするために数学を利用する力
- 数学が世界で果たす役割を見出す力

文部科学省 学習指導要領における観点別評価

文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います

知識・技能	数学の知識とスキル（技能）に関する理解について、主に筆記テストを通して、評価します。
思考・判断・表現	現実場面の問題を数学的モデルを用いて解決したり、数学の事象の中から問題を見出したりする力、またそれらプロセスを振り返り統合的・発展的に考えていく力および適切な数学の記号と言語を用いて、事実、概念、手法、結果、結論を伝える力を、レポートや筆記テスト等を通して、評価します。
主体的に学習に取り組む態度	数学の学習への取り組みを、授業での活動や提出物等を通して、評価します。

使用教材

教科書：数学Ⅲ Advanced（東京書籍）
 副教材：TGUISS 数学 5・6（サンプルセス）

学習内容

- ① 関数と極限 [4 月～5 月]
 数学Ⅱの学習を基にして、極限観念の理解をより深め、さまざまな関数や事象の考察・処理に活かすことができるようになります。
 （主な学習内容）逆関数と合成関数、数列の極限、関数の極限と連続性
- ② 微分法 [5 月～9 月]
 具体的な事象の考察を通して、微分に対する理解を深めるとともに、より広範囲にわたる事象の考察・処理に活かすことができます。
 （主な学習内容）微分可能と連続、積・商の微分法、合成関数と逆関数の微分法、三角関数・対数関数・指数関数の導関数、高次導関数、接線の方程式、平均値の定理、関数の増減、グラフの凹凸、第 2 次導関数と極大・極小、速度と加速度、関数の近似式、微分方程式
- ③ 積分法 [9 月～12 月]
 具体的な事象の考察を通して、積分に対する理解を深めるとともに、より広範囲にわたる事象の考察・処理に活かすことができます。
 （主な学習内容）不定積分、置換積分法と部分積分法、定積分、定積分と微分、区分求積法と定積分、面積、体積、回転体の体積、曲線の長さ

備考

数学 C と合わせて学習を進めていきます。

6 年を通じた教科目標/養いたい力

国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。6 年を通して、次のことを目標とし、学習を進めます。

国際社会の一員として、適切に判断し行動できる人間になるために、
 数学的リテラシーを育むとともに、数学に対する興味・関心を高め、豊かな感性を養う。

授業では、この目標を実現するために、また、数学教育の国際的な動向に目を向け、本校の独自テキスト『TGUISS 数学』を使用しながら、次のような活動を重視していきます。

- 実社会の問題を、数学の問題に直し、数学的に処理し、得られた解をもとの問題場面に照らして解釈する活動
- さまざまなアプリケーションを積極的に活用した探究活動
- 数学を使い、つくる活動

特に、現実や数学の事象を解決し、その過程を振り返って活動を整理することによって、新たな数学の知識や方法を構築する力の育成を目指します。

6 学年【数学 C】の目標/伸ばしたい力

学習内容や数学的プロセスに基づき、継続的に以下の力の育成を図っていきます。

- 様々な文脈において、数学的に問題を解決する力
- 数学的に推論したり、数学的根拠に基づき意思決定したりする力
- 事象を描写したり説明したり予測したりするために数学を利用する力
- 数学が世界で果たす役割を見出す力

文部科学省 学習指導要領における観点別評価

文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います

知識・技能	数学の知識とスキル（技能）に関する理解について、主に筆記テストを通して、評価します。
思考・判断・表現	現実場面の問題を数学的モデルを用いて解決したり、数学の事象の中から問題を見出したりする力、またそれらプロセスを振り返り統合的・発展的に考えていく力および適切な数学の記号と言語を用いて、事実、概念、手法、結果、結論を伝える力を、レポートや筆記テスト等を通して、評価します。
主体的に学習に取り組む態度	数学の学習への取り組みを、授業での活動や提出物等を通して、評価します。

使用教材

教科書：数学 C Advanced（東京書籍）
 副教材：TGUISS 数学 5・6（サンプロセス）

学習内容

- ① 座標幾何 II（いろいろな曲線・曲線のいろいろな表し方）〔4 月～7 月〕
 直線や曲線などの平面図形に関する条件を適切な座標系や式を用いて表現・処理し、それらの図形の性質や関係を見いだしたり確かめたりできるようにするとともに、その方法を事象の考察に活用できるようにします。ここでは特に、平面図形のさまざまな代数的表現を学びます。
 （主な学習内容）2 次曲線、媒介変数と極座標
- ② 複素数平面〔9 月～12 月〕
 複素数平面を用いて複素数を図表示し、複素数の演算や方程式の解の幾何学的な意味を理解し、平面図形への応用を通して複素数を事象の考察に活用できるようにします。
 （主な学習内容）複素数平面、複素数の極形式、ド・モアブルの定理、平面図形と複素数
- 『TGUISS 数学 5・6』も使用しながら、以上のような学習を行います。

備考

数学 III と合わせて学習を進めていきます。

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。6 年を通して、次のことを目標とし、学習を進めます。</p>	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>国際社会の一員として、適切に判断し行動できる人間になるために、 数学的リテラシーを育むとともに、数学に対する興味・関心を高め、豊かな感性を養う。</p> </div>	
<p>授業では、この目標を実現するために、また、数学教育の国際的な動向に目を向け、本校の独自テキスト『TGUISS 数学』を使用しながら、次のような活動を重視していきます。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • 実社会の問題を、数学の問題に直し、数学的に処理し、得られた解をもとの問題場面に照らして解釈する活動 • さまざまなアプリケーションを積極的に活用した探究活動 • 数学を使い、つくる活動 	
<p>特に、現実や数学の事象を解決し、その過程を振り返って活動を整理することによって、新たな数学の知識や方法を構築する力の育成を目指します。</p>	
6 学年【数学特講 a】の目標/伸ばしたい力	
<p>学習内容や数学的プロセスに基づき、問題解決力の育成を図っていきます。</p>	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
<p>文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います</p>	
知識・技能	<p>数学の知識とスキル（技能）に関する理解について、主に筆記テストを通して、評価します。</p>
思考・判断・表現	<p>さまざまな問題を数学を使って解決する力、および適切な数学の記号と言語を用いて相手に伝える力を、主に筆記テストを通して、評価します。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>数学の学習への取り組みを、授業での活動や提出物等を通して、評価します。</p>
使用教材	
<p>（空白欄）</p>	
学習内容	
<p>1 年間を通して、数学 I・II・A・B の問題演習を行います。</p>	
備考	
<p>主に、理系学部進学を希望している生徒が対象です。</p>	

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。6 年を通して、次のことを目標とし、学習を進めます。</p>	
<p>国際社会の一員として、適切に判断し行動できる人間になるために、 数学的リテラシーを育むとともに、数学に対する興味・関心を高め、豊かな感性を養う。</p>	
<p>授業では、この目標を実現するために、また、数学教育の国際的な動向に目を向け、本校の独自テキスト『TGUISS 数学』を使用しながら、次のような活動を重視していきます。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • 実社会の問題を、数学の問題に直し、数学的に処理し、得られた解をもとの問題場面に照らして解釈する活動 • さまざまなアプリケーションを積極的に活用した探究活動 • 数学を使い、つくる活動 	
<p>特に、現実や数学の事象を解決し、その過程を振り返って活動を整理することによって、新たな数学の知識や方法を構築する力の育成を目指します。</p>	
6 学年【数学特講 b】の目標/伸ばしたい力	
<p>学習内容や数学的プロセスに基づき、問題解決力の育成を図っていきます。</p>	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
<p>文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います</p>	
知識・技能	<p>数学の知識とスキル（技能）に関する理解について、主に筆記テストを通して、評価します。</p>
思考・判断・表現	<p>さまざまな問題を数学を使って解決する力、および適切な数学の記号と言語を用いて相手に伝える力を、主に筆記テストを通して、評価します。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>数学の学習への取り組みを、授業での活動や提出物等を通して、評価します。</p>
使用教材	
<p>（空白欄）</p>	
学習内容	
<p>1 年間を通して、数学 I・II・A・B の問題演習を行います。</p>	
備考	
<p>主に、共通テストで数学の受験を希望している生徒が対象です。</p>	

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。6 年を通して、次のことを目標とし、学習を進めます。</p>	
<p>国際社会の一員として、適切に判断し行動できる人間になるために、 数学的リテラシーを育むとともに、数学に対する興味・関心を高め、豊かな感性を養う。</p>	
<p>授業では、この目標を実現するために、また、数学教育の国際的な動向に目を向け、本校の独自テキスト『TGUISS 数学』を使用しながら、次のような活動を重視していきます。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実社会の問題を、数学の問題に直し、数学的に処理し、得られた解をもとの問題場面に照らして解釈する活動 ・ さまざまなアプリケーションを積極的に活用した探究活動 ・ 数学を使い、つくる活動 	
<p>特に、現実や数学の事象を解決し、その過程を振り返って活動を整理することによって、新たな数学の知識や方法を構築する力の育成を目指します。</p>	
6 学年【数学特講 c】の目標/伸ばしたい力	
<p>学習内容や数学的プロセスに基づき、問題解決力の育成を図っていきます。</p>	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
<p>文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います</p>	
知識・技能	<p>数学の知識とスキル（技能）に関する理解について、主に筆記テストを通して、評価します。</p>
思考・判断・表現	<p>さまざまな問題を数学を使って解決する力、および適切な数学の記号と言語を用いて相手に伝える力を、主に筆記テストを通して、評価します。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>数学の学習への取り組みを、授業での活動や提出物等を通して、評価します。</p>
使用教材	
<p>（空白欄）</p>	
学習内容	
<p>1 年間を通して、数学 I・II・A・B の問題演習を行います。</p>	
備考	
<p>主に、記述式の数学の受験を希望している生徒が対象です。</p>	

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>6 年を通して、次のことを目標とし、学習を進めます。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>国際社会の一員として、適切に判断し行動できる人間になるために、 数学的リテラシーを育むとともに、数学に対する興味・関心を高め、豊かな感性を養う。</p> </div> <p>授業では、この目標を実現するために、また、数学教育の国際的な動向に目を向け、本校独自のテキスト『TGUISS 数学』を使用しながら、次のような活動を重視していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実社会の問題を、数学の問題に直し、数学的に処理し、得られた解をもとの問題場面に照らして解釈する活動 ・ グラフ電卓やパソコン等を積極的に活用した探究活動 ・ 数学を使い、つくる活動 <p>特に、現実や数学の事象を解決し、その過程を振り返って活動を整理することによって、新たな数学の知識や方法を構築する力の育成を目指します。</p>	
数学特講イメージ B の目標/伸ばしたい力	
<p>将来的に海外の大学進学希望者で AP Calculus の受験を必要とする生徒に対しての学習と演習を目的とし、また英語で secondary level の数学を学ぶ機会を提供する。</p>	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
<p>文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います</p>	
<p>知識・技能</p>	<p>AP Calculus AB の問題を中心としたさまざまな数学問題を用いた筆記テストを通して評価します。</p>
<p>思考・判断・表現</p>	<p>AP Calculus AB の問題を中心としたさまざまな数学問題を用いた筆記テスト（や数学探究）を通して評価します。</p>
<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>AP Calculus AB の問題を中心としたさまざまな数学問題を用いた筆記テスト（や数学探究）への取組や宿題・振り返りを通して評価します。</p>
学習内容	
<p>Exercises for AP Calculus AB</p>	
備考	
<p> </p>	

6 年を通じた教科目標/養いたい力

国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。6 年を通して、次のことを目標とし、学習を進めます。

国際社会の一員として、適切に判断し行動できる人間になるために、
 数学的リテラシーを育むとともに、数学に対する興味・関心を高め、豊かな感性を養う。

授業では、この目標を実現するために、また、数学教育の国際的な動向に目を向け、本校の独自テキスト『TGUISS 数学』を使用しながら、次のような活動を重視していきます。

- 実社会の問題を、数学の問題に直し、数学的に処理し、得られた解をもとの問題場面に照らして解釈する活動
- さまざまなアプリケーションを積極的に活用した探究活動
- 数学を使い、つくる活動

特に、現実や数学の事象を解決し、その過程を振り返って活動を整理することによって、新たな数学の知識や方法を構築する力の育成を目指します。

6 学年 DP【Mathematics】の目標/伸ばしたい力

The aims of all DP mathematics courses are to enable students to:

1. develop a curiosity and enjoyment of mathematics, and appreciate its elegance and power
2. develop an understanding of the concepts, principles and nature of mathematics
3. communicate mathematics clearly, concisely and confidently in a variety of contexts
4. develop logical and creative thinking, and patience and persistence in problem solving to instill confidence in using mathematics
5. employ and refine their powers of abstraction and generalization
6. take action to apply and transfer skills to alternative situations, to other areas of knowledge and to future developments in their local and global communities
7. appreciate how developments in technology and mathematics influence each other
8. appreciate the moral, social and ethical questions arising from the work of mathematicians and the applications of mathematics
9. appreciate the universality of mathematics and its multicultural, international and historical perspectives
10. appreciate the contribution of mathematics to other disciplines, and as a particular “area of knowledge” in the TOK course
11. develop the ability to reflect critically upon their own work and the work of others
12. independently and collaboratively extend their understanding of mathematics.

ISS/DP 評価規準

評価方法

<General criteria(school-based)>

A: knowledge and skills (max. 6)

This criterion assesses students’ understanding of mathematical knowledge and skills with formative quiz and final exam mainly.

B: Process and reflection (max. 6)

This criterion assesses the abilities of:

- 1) interpreting real-life problems into mathematical problems and deriving a conclusion from facts based on proper mathematical procedures, then reflecting and evaluating the process of solving problems and the conclusion
- 2) deriving and verifying patterns and properties from mathematical phenomena, then developing them further

with report task, final exam and so forth.

C: Mathematical Communication (max. 6)

<Criteria for mathematical exploration>

Criterion A: presentation (max. 4)

This criterion assesses the organization and coherence of the exploration.

Criterion B: Mathematical communication (max. 4)

This criterion assesses to what extent the student has:

- used appropriate mathematical language (**notation, symbols, terminology**). Calculator and computer notation is acceptable only if it is software generated. Otherwise it is expected that students use appropriate mathematical notation in their work
- defined **key terms** and variables, where required
- used **multiple forms of mathematical representation**, such as formulae, diagrams, tables, charts, graphs and models, where appropriate
- used a **deductive method** and set out proofs

<p>This criterion assesses the abilities of:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) showing good use of precise mathematical expressions or notations effectively 2) reasoning appropriately and explain his or her opinions clearly and concisely 3) expressing his or her opinions against other's ideas based on appropriate reasoning <p>with report task, final exam and so forth.</p> <p>The total score is 18. The scale for evaluation is 1-7.</p>	<p>logically where appropriate.</p> <p>Criterion C: Personal engagement (max. 3)</p> <p>This criterion assesses the extent to which the student engages with the topic by exploring the mathematics and making it their own.</p> <p>Criterion D: Reflection (max. 3)</p> <p>This criterion assesses how the student reviews, analyses and evaluates the exploration.</p> <p>Criterion E: Use of mathematics-SL (max. 6)</p> <p>This criterion assesses to what extent students use mathematics that is relevant to the exploration.</p> <p>The total score is 20.</p>
--	---

文部科学省 学習指導要領における観点別評価

文部科学省の定める3つの観点は以下のような方法で評価を行います

<p>知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度</p>	
---	--

学習内容

<p>1. Mathematical exploration (April)</p> <p>Each student must choose his or her own topic or research question and explore it, using mathematics. Sharing his or her own topic and give some feedbacks to each other.</p> <p>2. Pre-calculus (April-July)</p> <p>(contents) Applications of differentiation, integration and volumes</p> <p>3. Voronoi diagrams (September)</p> <p>(contents) Constructing Voronoi diagrams, adding a site to a Voronoi diagrams.</p> <p>4. Review and Preparation for the external exam (October)</p> <p>(contents) Reviewing and working on mock exams.</p> <p>5. Coordinate geometry (November - January) ※The content will be subject to change.</p> <p>(contents) Some centroids for a triangle, Equations for some diagrams.</p>
--

備考

5年次・6年次開設の学校設定科目として扱う。

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
科学的探究を通して、調査や計画を行う、仮説を立てる、1 つの説明だけに終わらず別の可能性を探る、等のことに関して、批判的で創造的な思考を養う。他者の考えを理解して尊重することを学び、倫理的に優れたやり方で理論を展開させるスキルを身につけ、地域および国際社会の一員としての責任感をさらに発展させる。科学と、モラル・倫理・文化・経済・政治・環境などといった事柄が、お互いに刺激し合い、頼り合う関係性を発見する。	
6 学年【SS 物理】の目標/伸ばしたい力	
物理的な事物・現象についての観察、実験などをおこない、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を修得する。	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	3 観点について、本校 SS 理科で共通の独自のストランドを用いて評価する。それぞれ 0 ～ 6 点。それぞれの点数からの評価・評定の算出も共通とする。
使用教材	
教科書：物理（東京書籍）	
学習内容	
熱、電気と磁気、物質と原子などの単元を通して、身近にある自然現象や応用技術など私たちの生活と物理学の関わりについて学びます。	
<p><熱></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気体分子の運動と圧力（ボイルの法則・シャルルの法則・理想気体の状態方程式など） 2. 気体の状態変化（熱力学第一法則・気体の状態変化など） <p><電気と磁気></p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 電場と電位（電荷、電場、電位、コンデンサーなど） 4. 電流（電流、直流回路など） 5. 磁場と電流（磁場、電流と磁場、磁場が電流におよぼす力、ローレンツ力など） 6. 電磁誘導と電磁波（電磁誘導、交流、電磁波など） <p><原子></p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 電子と光（電子、光の粒子性、粒子の波動性など） 8. 原子と原子核（原子の構造、原子核、原子核反応、素粒子など） 	
備考	

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
科学的探究を通して、調査や計画を行う、仮説を立てる、1 つの説明だけに終わらず別の可能性を探る、等のことに関して、批判的で創造的な思考を養う。他者の考えを理解して尊重することを学び、倫理的に優れたやり方で理論を展開させるスキルを身につけ、地域および国際社会の一員としての責任感をさらに発展させる。科学と、モラル・倫理・文化・経済・政治・環境などといった事柄が、お互いに刺激し合い、頼り合う関係性を発見する。	
6 学年【物理基礎演習】の目標/伸ばしたい力	
物理演習では物理基礎で学習した内容の復習を行い、物理の基本的な概念の理解を深めるとともに、主に共通テストを目標とした問題演習を扱い、物理的な思考力をのばす。	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	3 観点について、本校 SS 理科で共通の独自のストランドを用いて評価する。それぞれ 0 ～ 6 点。それぞれの点数からの評価・評定の算出も共通とする。
使用教材	
プリント教材など	
学習内容	
以下の学習内容を通して、物理的な事物・現象に関する基礎的な知識及び基本的な概念や原理・法則を学習します。	
<力学・運動領域> 1. 運動の表し方 2. 運動の法則 3. 仕事とエネルギー <波動・電磁気領域> 4. 電気 5. 波動 6. 音波	
備考	

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
科学的探究を通して、調査や計画を行う、仮説を立てる、1 つの説明だけに終わらず別の可能性を探る、等のことに関して、批判的で創造的な思考を養う。他者の考えを理解して尊重することを学び、倫理的に優れたやり方で理論を展開させるスキルを身につけ、地域および国際社会の一員としての責任感をさらに発展させる。科学と、モラル・倫理・文化・経済・政治・環境などといった事柄が、お互いに刺激し合い、頼り合う関係性を発見する。	
6 学年【SS 化学】の目標/伸ばしたい力	
SS 化学は、本校の S S H(スーパーサイエンスハイスクール)事業の一環として開設する科目である。具体的には、IBDP Group4 Chemistry の趣旨を取り入れた授業を行い、以下を身につけることを目指す。	
<ol style="list-style-type: none"> ① 個人による実験デザインを可能にするための科学的知識および実験・観察スキルの定着。 ② ディスカッションやグループ実験を通して養うチームワーク力。 ③ データ処理、シミュレーション、表現・発信のツールとして ICT 活用能力。 ④ 科学技術の可能性とその限界への理解と意識 	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	3 観点について、本校 SS 理科で共通の独自のストランドを用いて評価する。それぞれ 0 ～ 6 点。それぞれの点数からの評価・評定の算出も共通とする。
使用教材	
教科書：化学（実教出版）	
副教材：サイエンスビュー化学総合資料（実教出版）	
学習内容	
物質の状態と平衡 物質の状態とその変化 溶液と平衡 物質の状態と平衡に関する探究活動 物質の変化と平衡 化学反応とエネルギー 化学反応と化学平衡 物質の変化と平衡に関する探究活動 無機物質の性質と利用 無機物質 無機物質と人間生活 無機物質の性質と利用に関する探究活動 有機化合物の性質と利用 有機化合物 有機化合物と人間生活 有機化合物の性質と利用に関する探究活動 高分子の性質と利用 高分子化合物 高分子化合物と人間生活 高分子化合物の性質と利用に関する探究活動	
備考	

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
自然に対する関心を高め、「化学」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。	
6 学年【化学基礎演習】の目標/伸ばしたい力	
化学基礎の内容の例題、基礎問題を解き、基礎力を高める。自分の苦手分野を把握し、克服するために何に取り組むことが大切か分析する力をつける。大学入学共通テストに対応できる学力を身につける。	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	3 観点について、本校 SS 理科で共通の独自のストランドを用いて評価する。それぞれ 0 ～ 6 点。それぞれの点数からの評価・評定の算出も共通とする。
使用教材	
教科書：「化学基礎」実教出版 資料集：「サイエンスビュー化学総合資料」実教出版 問題集：「セミナー化学基礎」第一学習社 等	
学習内容	
化学基礎の内容の復習、基礎問題を解き、大学入学共通テスト対策を行う。	
備考	

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
人間を含む生物、人間を取り巻く生物について多様な視点からその実体と現代科学の到達点と問題点を理解し、人間生活に正しく関連づけて、時に行動につなげられるようにする。	
6 学年【SS 生物】の目標/伸ばしたい力	
SS 生物は、本校の S S H(スーパーサイエンスハイスクール)事業の一環として開設する科目である。具体的には、以下を身につけることを目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・個人による実験デザインを可能にするための科学的知識および実験・観察スキルの定着。 ・ディスカッションやグループ実験を通して養うチームワーク力。 ・データ処理、シミュレーション、表現・発信のツールとして ICT 活用能力。 ・科学技術の可能性とその限界への理解と意識。生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。 	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	3 観点について、本校 SS 理科で共通の独自のストランドを用いて評価する。それぞれ 0 ～ 6 点。それぞれの点数からの評価・評定の算出も共通とする。
使用教材	
教科書：生物（数研出版）	
学習内容	
<p>(1) 生物の進化 生物の進化についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 生物の進化について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などの技能を身に付けること。 イ 生物の進化について、観察、実験などを通して探究し、生物の進化についての特徴を見いだして表現すること。</p> <p>(2) 生命現象と物質 生命現象と物質についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 生命現象と物質について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などの技能を身に付けること。 イ 生命現象と物質について、観察、実験などを通して探究し、生命現象と物質についての特徴を見いだして表現すること。</p> <p>(3) 遺伝情報の発現と発生 遺伝情報の発現と発生についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 遺伝情報の発現と発生について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。 イ 遺伝情報の発現と発生について、観察、実験などを通して探究し、遺伝子発現の調節の特徴を見いだして表現すること。</p> <p>(4) 生物の環境応答 生物の環境応答についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 生物の環境応答について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などの技能を身に付けること。 イ 生物の環境応答について、観察、実験などを通して探究し、環境変化に対する生物の応答の特徴を見いだして表現すること。</p> <p>(5) 生態と環境 生態と環境についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 生態と環境について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。 イ 生態と環境について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物間の関係性及び生物と環境との関係性を見いだして表現すること。</p>	
備考	

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
自然に対する関心を高め、「生物」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようにする。	
6 学年【生物基礎演習】の目標/伸ばしたい力	
生物や生物現象に対する探究心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	3 観点について、本校 SS 理科で共通の独自のストランドを用いて評価する。それぞれ 0 ～ 6 点。それぞれの点数からの評価・評定の算出も共通とする。
使用教材	
学習内容	
大学入試共通テストを意識した構成とし、「生物基礎」で学習した内容に関して理解を深め、演習を通して知識の定着をはかる。	
備考	

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
自然に対する関心を高め、「地学」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、宇宙という時間的・空間的にスケールの大きな存在から、足元の石という身近なスケールのものでの関連性を、つながりを持ってとらえ、また、それらの存在の認識を通して、人間の存在について考え、人間の行動について判断できるようになる。	
6 学年【SS 地学】の目標/伸ばしたい力	
課題研究やそれを進めるための実験や観察を通じて、地学現象の理解を深めるとともに、科学的に探究する能力と態度を育てる。そして、地学の高度な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養い、難関国立大学の 2 次試験に十分通用する学力を身につける。	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	3 観点について、本校 SS 理科で共通の独自のストランドを用いて評価する。それぞれ 0 ～ 6 点。それぞれの点数からの評価・評定の算出も共通とする。
使用教材	
教科書：高等学校 地学（啓林館）	
学習内容	
以下の学習内容を通して、地学現象に関する基礎的な知識及び基本的な概念や原理・法則を系統的に学習します。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球の構成と内部エネルギー ・ 地球の活動 ・ 地球の大気と海洋 ・ 地球表層の水の動きと役割 ・ 地球の環境と歴史 ・ 宇宙の構成 	
備考	

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
自然に対する関心を高め、「地学」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、宇宙という時間的・空間的にスケールの大きな存在から、足元の石という身近なスケールのものでの関連性を、つながりを持ってとらえ、また、それらの存在の認識を通して、人間の存在について考え、人間の行動について判断できるようになる。	
6 学年【地学基礎演習】の目標/伸ばしたい力	
地学基礎演習では地学基礎で学習した内容の復習を行い、主に共通テストを目標とした問題演習を重ね、地学的な思考力を伸ばすとともに問題演習のスキルを伸ばしていきます。	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	3 観点について、本校 SS 理科で共通の独自のストランドを用いて評価する。それぞれ 0 ～ 6 点。それぞれの点数からの評価・評定の算出も共通とする。
使用教材	
教科書：高等学校 地学（啓林館）	
学習内容	
以下の学習内容を通して、地学現象に関する基礎的な知識及び基本的な概念や原理・法則を系統的に学習します。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動する地球 ・ 地球と環境 ・ 大気と海洋 ・ 移り変わる地球 ・ 惑星としての地球 ・ 宇宙の構成 	
備考	

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
科学的探究を通して、調査や計画を行う、仮説を立てる、1 つの説明だけに終わらず別の可能性を探る、等のことに関して、批判的で創造的な思考を養う。他者の考えを理解して尊重することを学び、倫理的に優れたやり方で理論を展開させるスキルを身につけ、地域および国際社会の一員としての責任感をさらに発展させる。科学と、モラル・倫理・文化・経済・政治・環境などといった事柄が、お互いに刺激し合い、頼り合う関係性を発見する。	
6 学年【サイエンスイマージョン B】の目標/伸ばしたい力	
自然の事物現象について、量的・関係的な視点で観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、探究する能力と態度を獲得する。また、科学に関して、英語を用いて議論したり、考えたりする。 具体的には次のような学力や姿勢を修得することをめざします。	
<ul style="list-style-type: none"> ・個人による実験デザインを可能にするための科学的知識および実験・観察スキルの定着 ・ディスカッションやグループ実験を通して養うチームワーク力 ・データ処理、シミュレーション、表現・発信のツールとして ICT 活用能力 ・科学技術の可能性とその限界への理解と意識 	
サイエンスイマージョン A・B は、英語で科学的な探究活動を実施できるようになるための科目である。研究課題を設定し、年間を通じて探究活動に取り組むことによって、実験観察の技能、数学的・統計学的なデータ処理、研究倫理への理解、成果の報告・発表の技能を身につける。	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	3 観点について、本校 SS 理科で共通の独自のストランドを用いて評価する。それぞれ 0 ～ 6 点。それぞれの点数からの評価・評定の算出も共通とする。 レポートや作品などの提出物 実験・観察への取り組み 探究活動（プロジェクト）への取り組みと成果
使用教材	
学習内容	
Biophysics についての講義・実習（演習）およびプロジェクトを通して、物理の知識や手法および考え方の応用について理解を深める。社会生活や先端技術への物理学の応用など私たちの生活と物理学の関わりについて学ぶ。例えば次の分野などからトピックを取り上げ、英語で学ぶ。	
<ul style="list-style-type: none"> ・Introduction to Biophysics ・Cellular and Molecular Biophysics ・Protein Physics ・Protein Structure ・Protein Interaction ・Protein Folding and Energy ・Secondary Structure ・Protein Structure Classification ・Protein Prediction 	
研究成果の発表の場として、各学会の Jr.セッションや大学や企業が主催する課題研究発表会などの外部研究発表での英語での発表への参加を積極的に勧める。また、探究活動の自立的活動を促すために、校内課題研究コンテスト(ISS チャレンジ)への参加を勧める。	
備考	

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
自然に対する関心を高め、「化学」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。	
5 学年 DP【化学】の目標/伸ばしたい力	
化学の原理は、私たちが生活する物理的環境や生物システムの理解を支える土台となります。DP Chemistry では現実事象の理解や解決のために、実験・研究スキルの習得と化学の基本原理の学習が一体となった学習をします。学習過程においては、実験デザインに関わる全ての活動を個人で行います。科学的な知識、実験観察の技能、思考力や判断力、コミュニケーション力、ICT 活用力等、多様な能力やスキルをバランスよく習得していきます。	
ISS/DP 評価規準	評価方法
DP 化学の次の 3 つの評価目標（評価規準、観点）に基づいて評価します。3 つの観点重みづけを A40%、B40%、C20%とします。3 つの観点を総合して、各学期および学年の DP 評価を 7 段階で、学年の評定を 5 段階で示します。	
規準 A：知識とその応用（7 点） 規準 B：分析・評価・統合（7 点） 規準 C：科学的研究スキル（7 点）	下記の①～④の 4 つの評価対象によって評価します。①～④のそれぞれについて、A～C の観点ごとに点数化し、換算表によって 7 段階評価および 5 段階評定を算出します。 ①単元テスト … DP 最終試験の形式に準拠したテスト。Paper 1 は多肢選択問題、Paper 2 と Paper 3 は短答式問題と論述的問題です。 ②模試 … 6 年次 8 月後半に DP 最終試験に則って実施します。 ③IA（内部評価）およびプレ IA の科学的探究の実験レポート。 ④その他、実験ノートの活用や授業内の議論等の学習状況全般：
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	単元テストや模試の評価に基づき、評価する。
思考・判断・表現	単元テストや模試、実験レポートの評価に基づき、評価する。
主体的に学習に取り組む態度	授業中に実施する探究活動や議論への取り組みに基づき、評価する。
学習内容	
〈1 学期〉 Option A 材料科学 材料科学序論、金属と誘導結合プラズマ(ICP)分光分析法、触媒、液晶、ポリマー、ナノテクノロジー、環境への影響—プラスチック Topic 6 反応速度論 衝突理論と反応速度 Topic 7 化学平衡 平衡定数 IA(内部評価課題)の実施	
〈2 学期〉 IA(内部評価課題)の実施 Topic 1~11 の復習	
〈第 3 学期〉 ○テーマ学習	
★詳細については「DP 生徒用ガイド：Chemistry SL」を参照してください。	
備考	
「化学基礎」の履修を代替するものとする。	

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するために、運動やスポーツへの多様な関わり方を理解するとともに、体力の向上についての計画的、合理的な学習過程を通して、仲間と競争や協働しながら課題を発見し、主体的に解決を図る資質や能力を育てる。また、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上のための基礎・応用を学び、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を育てる。	
6 学年【体育】の目標/伸ばしたい力	
<p>運動の原則やルール、高度な戦術を考えることができる。</p> <p>一連の動きや技の構成などが洗練され、美的でスムーズに展開するとともに、表現豊かに運動することができる。</p> <p>より複雑な運動に対して必要な技術を習得し、それを利用して課題解決を図ったり、他者にも示したりすることができる。</p> <p>個人やグループで、優れた作戦や戦術を使って攻防したり、挑戦したりすることができる。</p> <p>他者との連携を図るために、協力したり責任感を持って取り組んだりするとともに、効果的なコミュニケーション力を発揮しようとするすることができる。</p> <p>学習カードの提出等、決められた約束を守ったり、他者と協力して懸命に取り組んだりすることができる。</p> <p>各運動種目における専門的な知識を深めながら技能を高めることができる。</p> <p>種目選択においては技術的な向上だけでなく、各競技を運営していくための能力を養うことができる。</p>	
ISS 評価規準	評価方法
規準 A：応用と実践	学習ノートの活用・内容、種目の特性理解各種目の実技テスト、試合におけるパフォーマンス
規準 B：課題発見・課題解決	内容、種目の特性理解・学習ノートの活用
規準 C：主体性・積極性	授業への取り組み
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	体育ノート、運動のパフォーマンス
思考・判断・表現	体育ノート、授業内における活動状況、個人集団におけるパフォーマンス
主体的に学習に取り組む態度	体育ノート及び授業内における活動状況
使用教材	
教科書：現代高等保健体育（大修館書店）	
副教材：Active Sports（大修館書店）	
学習内容	
<p>体づくり運動</p> <p>体育理論</p> <p>選択種目Ⅲ（バスケットボール、バドミントン、ソフトボール）</p> <p>選択種目Ⅳ（ハンドボール・テニス・バドミントンバレーボール）</p> <p>選択種目Ⅴ（アルティメット、卓球、バドミントン）</p> <p>※選択種目は変更になる場合があります</p>	
備考	
見学する場合は、必ず「見学届」を提出してください。	

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
IB 教育の充実を図りながら表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。教科横断的な視点を取り入れることで音楽文化についての理解をより深め、創造的な音楽性を培う。	
6 学年【音楽Ⅲ】の目標/伸ばしたい力	
<ol style="list-style-type: none"> 1 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものに、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。 2 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、より高度な表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。 3 多様な音楽に対する理解を深め、活動を通し主体的に鑑賞する能力を高める。 	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	歌唱テスト・器楽演奏・言語を含めた楽曲の編曲
思考・判断・表現	音楽分析
主体的に学習に取り組む態度	プロセスジャーナル、授業の取組の様子
使用教材	
教科書：Joy of Music（教育芸術社）	
学習内容	
<p>「表現」</p> <p>多様な音楽ジャンルにおける 5 部合唱から 6 部合唱の響きへと、相互の表現力を高めていきます。</p> <p>楽曲の和声的、形式的理解や、純正律を意識しながらハーモニーをつくることを、授業を体験しながら理解を深め、高度なコーラスを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハーモニーの学習 クローズハーモニーの表現方法を追求していきます。 ・音楽表現に関わる高度な学習 多様なジャンル、音楽体系の表現方法を追求し、幅広い時代の楽曲作品について表現できる力を育てていきます。 ・楽曲分析に基づく表現の学習と探究 方向性のある音楽づくりという観点で、理論・感性に基づく自己表現方法を追究します。 また、特定の楽曲や楽器について調査、探究をし、作品の演奏や発表を通してより専門性の高い表現力を身に着けます。 <p>「鑑賞」</p> <p>音楽を通じた表現に関する作品について鑑賞力を高めていきます。幅広い時代の音楽をより深く分析することを通して、音楽表現の幅を広げていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合芸術 / 相互鑑賞 自らのアンサンブル表現を追求し、互いの演奏を鑑賞することを通して鑑賞力を高めていきます。 音楽史の推移を学習しながら、時にそれぞれの音楽を再現することを通して、体験的に学習する。 <p>「創作」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和声学法、現代ポップスの作曲技法に基づく作編曲 ハーモニーの構造や和音進行の学習を深めつつ、旋律の創作、多編成への音楽の創作へと学習を広げていきます。 	
備考	
5 年次に音楽Ⅱを履修していること。	

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
様々な表現活動や鑑賞活動を通じて、多様な文化を体験し、独創的な発想力や構想力を高め、柔軟な感性を持つ、国際社会に通用する人間を育成する。	
6 学年【美術Ⅲ】の目標/伸ばしたい力	
美術科では 6 年間で 3 段階に分け、基礎美術、発展美術、創造美術と位置づけます。3 つの段階を学習することにより、基礎から応用まで無理なく楽しみながら学習活動ができるようにします。なお、後期課程からは芸術科は選択科目になります。（4 年次は選択必修）美術教室の中での活動だけでなく、学校図書館や美術館等の施設を積極的に活用し、美術に対する関心・意欲や鑑賞力・創造力を高めていきます。	
6 年生は多様な表現や文化への理解を深め、豊かな感性と創造力を持って社会へはばたいていく時期と捉え、授業を展開していきます。	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	作品・課題・授業中の活動などをもとに評価する。
思考・判断・表現	アートジャーナル・作品・授業中の活動などをもとに評価する。
主体的に学習に取り組む態度	アートジャーナル・作品・課題・授業中の態度などをもとに評価する。
使用教材	
教科書：美術 3（光村図書）	
学習内容	
1) 作品 これまでに学習した様々な分野の手法を活用して、自分の追究したい主題を表現します。 （主な学習内容・活動内容） 絵画、彫刻、デザイン、映像メディア表現、スケッチ	
2) アートジャーナル 作品制作と関連して、学習をより深める為に追究すべきことを設定し記録します。 制作過程や成果も記録します。 （主な学習内容・活動内容） 美術の文化・歴史・作家・作品・表現の調査と分析、表現技法の研究、アイデアスケッチ、制作計画・課程・成果の記録、自他の表現の振り返りと評価	
* 行事等授業時数の関係で内容が多少変更することがあります。	
備考	
5 年時に美術Ⅱを履修していること。	

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
様々な表現活動や鑑賞活動を通じて、多様な文化を体験し、独創的な発想力や構想力を高め、柔軟な感性を持つ、国際社会に通用する人間を育成する。	
6 学年 DP【美術】の目標/伸ばしたい力	
In DP Visual Arts students will experiment with a wide variety of genres and styles while exploring their own creative and cultural backgrounds. The course will focus on finding personal identity as well as understanding how the visual arts can affect society and the environment around us. Students will develop the ability to express their ideas for lifelong use.	
ISS/DP 評価規準	評価方法
At the end of each school term, students will be evaluated by the school-based DP visual arts assessment criteria.	
Criteria A : Analytical Thinking Criteria B : Artistic Expression Criteria C : Communicating Through Art Criteria D : Developmental Process	Evidences; The Art Journal (Nonverbal visualization are included.) Art Works, Presentation, Reports Comparative study Process portfolio Art Exhibition
Assessment components	
<u>External assessment</u>	
Comparative study—20% Students at SL analyse and compare different artworks by different artists. This independent critical and contextual investigation explores artworks, objects and artifacts from differing cultural contexts.	
Process portfolio—40% Students at SL submit carefully selected materials, which evidence their experimentation, exploration, manipulation and refinement of a variety of visual arts activities during the two- year course.	
<u>Internal assessment</u>	
Part 3: Exhibition—40% Students at SL submit for assessment a selection of resolved artworks from their exhibition. The selected pieces should show evidence of their technical accomplishment during the visual arts course and an understanding of the use of materials, ideas and practices appropriate to visual communication.	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	
学習内容	
1 st semester/ April-May	Creation of artwork related to the theme
1 st semester/ June-July	Improvement of artwork
Summer Vacation	Complete all work
2 nd semester/ September-	Exhibition
2 nd semester/ October	Submission for IB
2 nd semester/ November-December	Classroom critiques and reflection
3 rd semester	Reflection

★詳細については「DP 生徒用ガイド : Visual arts SL」を参照してください。

備考

5年次・6年次開設の学校設定科目として扱う。

3 年を通じた教科目標/養いたい力	
様々な表現活動や鑑賞活動を通じて、多様な文化を体験し、独創的な発想力や構想力を高め、柔軟な感性を持つ、国際社会に通用する人間を育成する。	
6 学年【書道Ⅲ】の目標/伸ばしたい力	
6 年生の芸術書道は、書道における専門的な知識の学習を行うとともに、古典の臨書学習を通し、書道における伝統的な表現の方法を学びます。書を自己表現の有効的な一つの方法としてとらえ、豊かな芸術表現や活動ができるようにします。また、書の様々な表現に触れながら、書の文化的活動の体験を通して、豊かな感性を育むとともに芸術への関心を深めます。	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	学習した芸術的な内容や理論的根拠などに関する知識や理解について授業ごとのワークシートやレポートなどを通じて評価します。鑑賞した古典や作品の制作過程への考察、またはそれらが制作された意図や時代背景への学習を起点とし、書文化全体への興味・関心を深めることができたかをワークシートやレポートを通じて評価します。 芸術を表現とコミュニケーションの一形態として活用できる力や、発想や主題を構成して具体化する力、作品と作品制作を行う過程などを通じて評価します。 書の表現に必要な基本的なスキルと適切な用具用材の扱い方なども評価します。 自分の作品について充分考えることができたか、発想を自己の技術により具体化するだけでなく、作品制作の過程においても十分な工夫ができたか、またフィードバックできたかを学習活動やワークシートを通じて評価します。 制作期限を守って作業をしたか、前向きな制作環境を作って作業したか等についてもワークシートや授業態度などを通じて評価します。
使用教材	
教科書：書道Ⅲ（教育図書）	
学習内容	
<p>【1 学期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●書道Ⅱの復習と書道Ⅲの導入 ●漢字の書の学習 採択体験／書体の変遷 楷書の書風比較／臨書学習①「麻姑仙壇記」／臨書学習②光明皇后「樂毅論」 行書の書風比較／臨書学習③「喪乱帖」／草書の書風比較／臨書学習④「離洛帖」 篆書の書風比較／臨書学習④「散氏盤」「甲骨文字」「金文」	
<ul style="list-style-type: none"> ●篆刻 篆刻の方法と手順／落款印の制作（仮名・漢字仮名交じり用）	
<p>2 学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ●仮名の書の学習 仮名の用筆の復習／散らし書きの鑑賞と方法／臨書学習①「小倉色紙」 臨書学習②「高野切第三種」（長文臨書）／創作作品制作（仮名、散らし書き） 料紙作り、紙の加工／表具	
<ul style="list-style-type: none"> ●漢字仮名交じりの書の学習 漢字と仮名の調和、書く言葉の内容と表現の関係／イメージに合う作品制作と表現 創作作品①（長文大作品） 実用書（年賀状）	
<p>【3 学期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●漢字仮名交じりの書の学習 創作作品制作②（小作品）	
備考	

5年時に書道Ⅱを履修していること。

6 年を通じた教科目標/養いたい力		
習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語能力全般の伸長をめざします。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。		
6 学年【英語コミュニケーションⅢ】の目標/伸ばしたい力		
習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、書き手の意向などを読みとる能力を一層伸ばすとともに、英語を理解しようとする積極的な態度を育てることを目指します。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。		
ISS 評価規準	評価方法	
規準 A : Listening	テスト	
規準 B : Reading	テスト	
規準 C : Speaking	スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー等	
規準 D : Writing	テスト、文法問題、作文、エッセイ等	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価		
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います		
知識・技能	規準 C (Speaking)・ 規準 D (Writing)	
思考・判断・表現	規準 A (Listening)・ 規準 B (Reading)・規準 C (Speaking)・ 規準 D (Writing)	
主体的に学習に取り組む態度	規準 A (Listening)・ 規準 B (Reading)・規準 C (Speaking)・ 規準 D (Writing) ・Effort (日頃の授業の取り組みや課題・振り返り等総合的に評価)	
使用教材		
教科書：CROWN English Communication III (三省堂)		
学習内容		
教科書の学習内容を踏まえて、英語を使って自分の意見を根拠とともに発信する学習を中心に行います。さらに語彙や表現の幅を広げます。様々な活動を通して英語力の定着をはかります。学習のテーマとしては以下を想定しています。(以下のテーマは CROWN English Communication III のものです。扱う題材が変更になる場合もあります。)		
課	タイトル	題材/場面
L1	How Language Shapes the Way We Think	言語・思考/講演・学校生活
L2	Weak Robots	科学技術・社会/雑誌記事・地域での活動
L3	Fake News Is Everywhere: Beware!	情報・社会/論説文
L4	Beyond What Nature Intends	科学技術・生き方/雑誌記事・地域での活動
L5	How to Beat Procrastination	心理・行動/ブログ記事・学校生活
L6	Today's Treasure, Tomorrow's Trash	環境・消費社会/論説文・地域での活動
L7	Only a Camera Lens between Us	平和・国際貢献/雑誌記事・地域での活動
L8	Super Clone Cultural Properties	芸術・文化遺産/インタビュー・地域での活動
L9	Culture in the Animal Kingdom	動物・文化/論説文
L10	Does Money Make You Mean?	経済・社会心理/雑誌記事
週 4 時間授業がありますが、その内の 2 時間を日本人教員が担当し、観点 B (Reading)と観点 D (Writing)を中心に取り扱います。残りの 2 時間をネイティブ教員が担当し、観点 A (Listening)と観点 C (Speaking)を中心に授業を行います。		
備考		
この科目は選択です。ただし、習熟度に応じてクラスを複数設定しますので、オリエンテーション等で指示に従ってください。		

6 年を通じた教科目標/養いたい力			
習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語学習が目的ではなく、英語で身近なところから世界規模の様々な問題を扱い、知識を蓄え、問題を発見、分析、解決していく力を育みます。			
6 学年【論理・表現Ⅱ】の目標/伸ばしたい力			
習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、自分の考えなどを的確に書く能力を一層伸ばすとともに、英語で表現しようとする積極的な態度を育てることを目指します。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。			
ISS 評価規準		評価方法	
規準 C : Speaking		スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー	
規準 D : Writing		作文、文法問題、エッセイ、テスト	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価			
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います			
知識・技能		規準 D (Writing)	
思考・判断・表現		規準 C (Speaking)	
主体的に学習に取り組む態度		規準 C (Speaking)・規準 D (Writing)・Effort (日頃の授業の取り組みや課題・振り返り等総合的に評価)	
使用教材			
教科書 : CROWN Logic and Expression II (三省堂)			
学習内容			
英語を使いながら様々なテーマについて学ぶ力と態度を伸ばします。社会科、数学科、理科、芸術など 他教科からのアプローチを特に意識し、様々な問題について議論します。以下のような題材を取り扱うことを予定しています。(以下のテーマは CROWN Logic & Expression II のものです。題材は変更になる場合があります。)			
課	タイトル	主な言語材料	題材/場面
L1	Dear Mayor,	希望/依頼/許可	人生・生き方/ディスカッション、手紙を書く
L2	Manga Find Ever-increasing Global Fans	感情を表す表現	漫画・芸術/ディスカッション、エッセイを書く
L3	Japanese Baths	忠告/必要/提案・勧誘	日本文化・異文化理解/ディベート、エッセイを書く
L4	Innovators of the World	時間的順序	人物・科学/ディスカッション、レポートを書く
L5	Don't Throw Us Away!	例証/分類・列挙	社会問題/ディスカッション、エッセイを書く
L6	Urban Development	空間配列・方向	都市計画/ディスカッション、エッセイを書く
L7	Food and Culture in the World	方法・様態/数量表現	料理・食文化/ディスカッション、エッセイを書く
L8	The Potential for E-Sports	賛成・反対	スポーツ/プレゼンテーション、ディスカッション、エッセイを書く
L9	All Gone?	原因・理由/目的/結果	生態系・環境問題/ディスカッション、エッセイを書く
L10	The "New Normal" at School	比較・対照/譲歩	教育/スピーチ、ディスカッション
備考			
この科目は選択です。ただし習熟度に応じてクラスを複数設定しますので、オリエンテーション等で指示に従ってください。			

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語能力全般の伸長をめざします。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。	
6 学年【英語特講】の目標/伸ばしたい力	
習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、自分の考えなどを的確に書く能力を一層伸ばすとともに、英語で表現しようとする積極的な態度を育てることを目指します。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。	
ISS 評価規準	評価方法
規準 B : Reading	テスト
規準 D : Writing	テスト、作文、文法問題、エッセイ
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	規準 B (Reading)、規準 D (Writing)
思考・判断・表現	規準 B (Reading)、規準 D (Writing)
主体的に学習に取り組む態度	規準 B、規準 D、Effort (日頃の授業の取り組みや課題・振り返り等総合的に評価)
使用教材	
学習内容	
<p>学習内容は以下の通りです。選択したクラスによって、取り扱う内容が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○英文法演習 中学校から高校までの基本的な学習内容を幅広く学習（復習）します。 ○英文読解演習 短文～超長文と呼ばれるものまで様々なレベルの英文に取り組みます。 ○英作文演習 和文英訳から自由英作文、エッセイライティングまで様々な課題に取り組みます。 ○英文要約演習 英文の要点を捉え、正しく端的に説明できるようなることを目標とします。 ○入試問題・資格試験対策演習 大学入試の過去問や、各種資格試験の問題演習を行います。 ○Advanced English Output Training 今まで学習したことを総合的に用いて、英語の表現力を高めます。 	
備考	
この科目は選択です。ただし習熟度に応じてクラスを複数設定しますので、オリエンテーション等で指示に従ってください。	

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語能力全般の伸長をめざします。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。	
6 学年 DP【English A】の目標/伸ばしたい力	
<ul style="list-style-type: none"> engage with a range of texts, in a variety of media and forms, from different periods, styles and cultures develop skills in listening, speaking, reading, writing, viewing, presenting and performing develop skills in interpretation, analysis and evaluation develop sensitivity to the formal and aesthetic qualities of texts and an appreciation of how they contribute to diverse responses and open up multiple meanings develop an understanding of relationships between texts and a variety of perspectives, cultural contexts, and local and global issues, and an appreciation of how they contribute to diverse responses and open up multiple meanings develop an understanding of the relationships between studies in language and literature and other disciplines communicate and collaborate in a confident and creative way foster a lifelong interest in and enjoyment of language and literature 	
ISS/DP 評価規準	評価方法
A. Knowledge and understanding	Paper 1: Guided textual analysis
B. Application and analysis	Paper 2: Comparative essay
C. Synthesis and evaluation	Higher Level Essay
D. Selection and use of appropriate presentation and language skills	Individual Oral Mocks of the above
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能	規準 A + B
思考・判断・表現	規準 C + D
主体的に学習に取り組む態度	規準 C + D + Effort
学習内容	
In this course, students study a wide range of literary and non-literary texts in a variety of media. By examining communicative acts across literary form and textual type alongside appropriate secondary readings, students will investigate the nature of language itself and the ways in which it shapes and is influenced by identity and culture. Approaches to study in the course are meant to be wide ranging and can include literary theory, sociolinguistics, media studies and critical discourse analysis among others.	
備考	
5 年次・6 年次開設の学校設定科目として扱う。	

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語能力全般の伸長をめざします。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。	
6 学年 DP【English A】の目標/伸ばしたい力	
<ol style="list-style-type: none"> 1. Communicate clearly and effectively in a range of contexts and for a variety of purposes. 2. Understand and use language appropriate to a range of interpersonal and/or intercultural contexts and audiences. 3. Understand and use language to express and respond to a range of ideas with fluency and accuracy. 4. Identify, organize and present ideas on a range of topics. <p>Understand, analyze and reflect upon a range of written, audio, visual and audio-visual texts.</p>	
ISS/DP 評価規準	評価方法
規準 A : Oral skills 規準 B : Receptive skills 規準 C : Writing skills	スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー、エッセイ作文
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	規準 B Receptive skills 規準 A Oral skills + 規準 C Writing skills 規準 A Oral skills + 規準 C Writing skills + Effort (日頃の授業の取り組みや課題・振り返り等総合的に評価)
学習内容	
This 2-year (5th and 6th year) course is designed to help students become skilled English communicators in authentic situations. Students will study various types of texts ranging from news articles to blog posts. In addition to these texts, students will also read two works of literature. Intriguing issues of English-speaking cultures on topics from identity to human ingenuity will be explored.	
備考	
5 年次・6 年次開設の学校設定科目として扱う。	

理数科・5/6 学年【理数探究・各 1 単位】 Inquiry-Based Study of Science and Mathematics

6 か年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>科学的探究を通して、モデルを作成する、調査や計画を行う、仮説を立てる、1 つの説明だけに終わらず別の可能性を探る、等のことに関して、批判的で創造的な思考を養う。他者の考えを理解して尊重することを学び、倫理的に優れたやり方で理論を展開させるスキルを身につけ、地域および国際社会の一員としての責任感をさらに発展させる。科学と、モラル・倫理・文化・経済・政治・環境などといった事柄が、お互いに刺激し合い、頼り合う関係性を発見する。</p>	
【理数探究】の目標/伸ばしたい力	
<p>様々な事象に関わり、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を次の通り身に付けることを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能を身に付ける。 2. 多角的、複合的に事象を捉え、数学や理科などに関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を身に付け、創造的な力を高める。 <p>様々な事象や課題に主体的に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度、探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度及び倫理的な態度を身に付ける。</p>	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
<p>文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います</p>	
知識・技能	<p>研究計画書・研究経過報告書・論文・行動観察・研究ノート・振り返りなどを用いて、各観点に応じて、以下の視点から評価します。</p> <p>自分の研究の位置づけや価値を明確化することができるか／自分の研究の過程を見通し、実践することができるか／研究倫理について理解しているか／論文を執筆するための技能や効果的に発表するための技能を身に付けているか</p>
思考・判断・表現	<p>探究の意義や過程、研究倫理を踏まえ、多角的、複合的に事象を捉え、課題(研究テーマ)を設定することができるか／数学的な手法や科学的な手法などを用いて、探究の過程を遂行することができるか／探究の過程を整理し、成果などを適切に表現することができるか</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>様々な事象や課題に知的好奇心をもって向き合い、課題を設定しようとしているか／設定した課題に対して誠実に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決に向けて挑戦しようとしているか／探究の過程を振り返って評価・改善しようとしているか</p>
使用教材	
<p> </p>	
学習内容	
<p>2 年間を通して、課題研究を実施します。「理数探究」の対象となる事象は自然科学だけではなく、社会科学や人文科学、芸術やスポーツ、生活に関するものなどあらゆるものが含まれます。これらの事象について科学的な手法を用いて（数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を働かせることで）探究できるものです。具体的には以下のようなものになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 自然現象や社会現象に関すること ◇ 先端科学や学際的領域に関すること ◇ 自然環境に関すること ◇ 科学技術に関すること ◇ 数学的事象に関すること 	
備考	
<ul style="list-style-type: none"> ◇ 本科目は 2 年間にわたる分割履修です。5 年生と 6 年生のそれぞれで週 1 時間開講されます。5 年次に本科目を選択した場合、6 年次でも必ず本科目を履修することになります。途中で変更はできません。 ◇ 本科目を履修する生徒は、5 年次の履修届と同時に、研究内容の方向性がわかるもの(別途様式を作成予定)を提出すること。 	

国際教養・1～6 学年【国際1～6】

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>1. 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けて、多様な文化・社会の在り方やそこで生きる人々及び様々な現象について理解を深める。また、課題解決のための方法について知る。</p> <p>2. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査のために様々な方法を実践したり、得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことについて根拠を明らかにしてまとめ、表現し、異なる文化・背景を持つ他者と共有してディスカッションする力を身に付ける。</p> <p>3. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題の解決に主体的・協働的に取り組むとともに、多様な文化・背景を持つ他者と互いのよさを生かしながら、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。</p> <p>ここで国際理解・人間理解・理数探究とは、現代的な諸課題を見る 3 つの視点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国際理解…自国の文化・他国の文化を含めて、多様な文化・社会の在り方について理解を深める。 ○ 人間理解…社会を支える一員として、学校・地域・国・世界に生きる人々の生き方や社会の在り方について考え、思いやりの心を身につける。 ○ 理数探究…身の回りや世の中の様々な事象を科学的視点から捉え、社会に活用していく方法について考える。 	
各学年【国際】の目標/伸ばしたい力	
<p>〈1 年〉様々な事柄の「つながり」を意識して学習する。異なる文化・環境に生きる人々に関心を持ち、それらに対する耐性を養う。</p> <p>〈2 年〉様々な人が生きている社会と自分との関わりを客観的にとらえ、他者との適切なコミュニケーションの方法を身につける。</p> <p>〈3 年〉様々な現代社会の課題について情報を集め、自分たちとその課題の関わりについて考え、異なる文化・背景を持つ他者とも情報や意見を共有する。</p> <p>〈4 年〉自分なりの視点で現代社会の課題を見つけ、調査・探究し、現実の社会に自らアプローチする。</p> <p>〈5 年〉異なる文化・環境を持つ他者と課題を共有し、英語でディスカッションすることができる力を身につける。</p> <p>〈6 年〉社会にとって意義ある問いを立て、それに対して何らかのアクションを起こすことを目指す。また、母語でも外国語でも、異なる文化・背景を持つ他者と自分たちの社会の課題について対話し、相互協力体制を築けるような姿勢・力を身につける。</p>	
MYP/ISS 評価規準	評価方法
総合的な学習/探究の時間は MYP の課程内ではありませんので、該当する内容はありません。	各学年の国際教養の時間、国際教養群に入っている各教科の科目によって多様な評価が行われます。
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	各学年で開設されている「国際○」の時間は、学習指導要領では「総合的な学習の時間」（前期課程）、「総合的な探究の時間」に対応します。総合的な学習/探究の時間では、数値による評価・評定は行われず、記述による評価がなされます。 国際教養群に含まれる各教科の科目に関しては、前期・後期とも各科目で観点を設け、数値による評価・評定を行っています。
学習内容	
<p>1 年 「国際 1」、「Learning in English 1」</p> <p>2 年 「国際 2」、「Learning in English 2」</p> <p>3 年 「国際 3」、「Pre Immersion」、「Learning in English 3」</p> <p>4 年 「MYP Personal Project/課題研究」、「Global Issues」、「英語以外の言語」</p> <p>5 年 「総合的な探究の時間」「Global Issues」「英語以外の言語」</p> <p>6 年 「総合的な探究の時間」「国際 A」「国際 B」</p> <p>上記の科目・総合的な学習の時間の他に、1・3・5 年のワークキャンプ I・II（国内）・III（海外）・各学年や教科で実施されるフィールドワークも学習内容に含まれます。また、1 年から 3 年では、4 年次において PP を完成させるためのスキルを身に付ける学習活動を行います。さらに、5・6 年の「総合的な探究の時間」では、学年の枠を越えた形態で探究活動を行います。</p>	

6か年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>「国際教養」の目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けて、多様な文化・社会の在り方やそこで生きる人々及び様々な現象について理解を深める。また、課題解決のための方法について知る。 2. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査のために様々な方法を実践したり、得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことについて根拠を明らかにしてまとめ、表現し、異なる文化・背景を持つ他者と共有してディスカッションする力を身に付ける。 3. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題の解決に主体的・協働的に取り組むとともに、多様な文化・背景を持つ他者と互いのよさを生かしながら、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。 	
各学年【総合的な探究の時間】の目標/伸ばしたい力	
<p>上記の通りですが、各学年ではそれぞれ特に次のことを目指します。</p> <p>〈4年生〉自分なりの視点で現代社会の課題を見つけ、課題について調査・探究し、現実の社会に自らアプローチする。</p> <p>〈5年生〉異なる文化・環境を持つ他者と課題を共有し、英語でディスカッションすることができる力を身につける。</p> <p>〈6年生〉社会にとって意義ある問いを立て、それに対して何らかのアクションを起こす。</p>	
〈国際4〉Personal Project MYP 評価規準	評価方法
<p>合計 24 点満点・7 段階</p> <p>規準 A 計画(8 点) 基準 B スキルの応用(8 点)</p> <p>規準 C 振り返り(8 点)</p>	<p>Personal Project はプロポーザル、プロセスジャーナルのエビデンス、報告レポート(9 月提出)、完成成果物(9 月提出)、自己評価(9 月提出)、出席状況・取り組み状況を材料として評価します。</p>
〈国際5/6〉総合的な探究の時間 評価基準	評価方法
<p>合計 24 点満点・6 段階</p> <p>規準 A 研究の目的と意義 : 6</p> <p>規準 B 研究の方法・計画と資料の収集 : 6</p> <p>規準 C 結果と考察 : 6 規準 D 結論と課題・展望 : 6</p>	<p>総合的な探究の時間は、中間論文(5 年)・最終論文(6 年)を評価します。その他、形成的評価として研究計画書や研究経過報告書、出席状況や取り組み状況を評価します。</p>
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
<p>文部科学省の定める3つの観点は以下のような方法で評価を行います</p>	
<p>知識・技能</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>研究計画書・研究経過報告書・論文・行動観察・研究ノート・振り返りなどを用いて、各観点に応じて、以下の視点から評価します。なお総合的な探究の時間は記述での評価となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解しているか。 ● 現代的な諸課題から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現しているか。 ● 探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしているか。
学習内容	
<p>〈国際4〉Personal Project</p> <ul style="list-style-type: none"> ● MYPの学習の集大成として Personal Project に取り組む。 ● 自らの興味関心に沿って社会にどう役立つのかを考えて課題を設定し、学習目標と成功規準を作成した上で、自分の力で調査し、分析し、成果物や報告レポートを仕上げ、プロジェクトという形にする。 <p>〈国際4 後半/5/6〉総合的な探究の時間(課題研究)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本校における探究学習の集大成として、2年間(実際には4年生後半から)かけて「課題研究」に取り組む。 ● 自分の問題意識に照らして研究課題を設定し、適切な研究方法で分析・考察を進め、論文にまとめる。 <p>〈国際5〉海外ワークキャンプ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本校独自の学習領域「国際教養」の集大成として、海外で異文化に触れ、多様な社会・文化のあり方を知るとともに、自国の文化を再認識する。 ● 海外で多様な文化に生きる人々と現代的な課題について共有し、議論する力を伸ばす。 	
備考	
<p>4年生の「総合的な探究の時間」(前半は Personal Project、後半は課題研究)は、生徒全員が履修します。</p> <p>5年生・6年生の「総合的な探究の時間」(探究)は、「理数探究」との選択必修となり、2年間にわたって必ず履修します。</p>	

6 年を通じた教科目標/養いたい力	
<p>国際教養の目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けて、多様な文化・社会の在り方やそこで生きる人々及び様々な現象について理解を深める。また、課題解決のための方法について知る。 2. <u>国際理解・人間理解・理数探究</u>に関わる現代的な諸課題から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査のために様々な方法を実践したり、得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことについて根拠を明らかにしてまとめ、表現し、異なる文化・背景を持つ他者と共有してディスカッションする力を身に付ける。 3. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題の解決に主体的・協働的に取り組むとともに、多様な文化・背景を持つ他者と互いのよさを生かしながら、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。 	
6 学年【国際 A/B】の目標/伸ばしたい力	
<p>国際社会に出るにふさわしい人間として、既存の教科の枠を超えた幅広い分野に関心を持ち、かつ関心を持つ分野における深い知識を身につける。</p>	
文部科学省 学習指導要領における観点別評価	
<p>文部科学省の定める 3 つの観点は以下のような方法で評価を行います</p>	
<p>知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>各講座の担当教員より示されます。</p>
使用教材	
<p>各講座の担当教員より示されます。</p>	
学習内容	
<p>令和 6(2024)年度開講講座は以下のとおりです。</p> <p>国際 A（2 単位）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ソーシャルアクション概論 ■ メディアと表現 ■ 応用数学 <p>国際 B（1 単位）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ファシリテーション実践 ■ College Prep ■ サイエンス・スタディーズ ■ 情報 I 演習 <p>詳細については、各講座の担当教員より示されます。</p>	
備考	
<p> </p>	